

公共事業の効果等について

資料4 - 1

県営クリーク防災機能保全対策事業 …………… [農山漁村課]
(川副西地区)

資料4 - 2

地域自主戦略交付金事業 …………… [道 路 課]
(小城富士線)

資料4 - 3

街路整備交付金事業 …………… [都市計画課]
(城内線 1 工区)

公共事業の効果等について

【事業名、地区名、事業概要】

事業名：県営クリーク防災機能保全対策事業

箇所名：川副西地区（佐賀市川副町）

事業の概要

工 期：平成 13 年度～平成 25 年度

事 業 費：2,661,545 千円

事業内容：クリーク法面の護岸工 L=17,751m

堆積土の浚渫

【公共事業の効果等】

湛水被害の防止

- ・護岸整備と浚渫により、クリークの機能回復が図られ、大雨時の湛水被害が減少した。
- ・排水が不良となっていたクリークの整備により、整備前に比べ早急な排水が可能となった。
- ・管理水位を下げることが可能となり、大雨時の一時貯留が可能となった。
- ・大雨が予想される時には、事前に排水することが可能になった。（法面崩壊の恐れから、これまでは水位を下げられなかった）

畑作物の生産拡大

- ・湛水被害の軽減とともに、管理水位を引き下げることが可能となり、乾田化が図られたことから、麦、大豆、施設園芸（アスパラ）の安定生産が可能となり作付面積が増加した。
- ・クリークの法面が整備されたことにより、トラクターやコンバインなどの大型機械でも安心して作業ができるようになった。

【事業実施前の状況等】

- ・多くのクリーク（土水路）は、経年変化や水位変動により、法面の崩壊が進行し、水路内に土砂が堆積していた。
- ・このため、営農作業や隣接道路の通行が危険な状態となっていた。
- ・また、貯水・送水機能及び洪水調節機能が低下していた。（機能低下による危険性の高まり）
- ・水位変動に耐えうる護岸整備により、クリークの機能回復を図り、営農等の安全性と周辺地域の安全安心な生活を確保する必要がある。

【事業実施後の状況や県民の声など】

- ・堆積した土砂で浅くなっていた水深が、昔のように深くなり、農業用水の不足を心配しなくて良くなった。
- ・法面が整備され、足場（ブロックマットの縁）ができたことで草刈りなどの維持管理がやりやすくなった。
- ・整備後これまでの間にのり面の崩壊や土砂の堆積はない。
- ・本事業により整備された施設は川副町土地改良区及び農家により適切に維持管理されており、多面的機能支払交付金を活用し、年 2 回地域住民と一緒にクリーク法面の草刈りや水草除去等を行っている。

公共事業に係る効果等について

県営クリーク防災機能保全対策事業 川副西地区

(農山漁村課)

事業概要

事業名: 県営クリーク防災機能保全対策事業

- ・ 地区名: 川副西地区
- ・ 所在地: 佐賀市川副町
- ・ 工期: 平成13年度～平成25年度
- ・ 事業費: 2,661,545千円
- ・ 受益面積: 1,668ha
- ・ 受益者数: 1,893人
- ・ 事業内容: クリーク法面の護岸工 L=17,751m
堆積土の浚渫

背景と目的②

【現状】

多くのクリーク(土水路)は、経年変化や水位変動により、**法面の崩壊が進行し、水路内に土砂が堆積。**

【課題】

- ・営農作業や隣接道路の通行が危険な状態
- ・貯水・送水機能及び洪水調節機能が低下
(機能低下による危険性の高まり)



法面の崩落状況
(トラクターの転落)

【事業の目的】

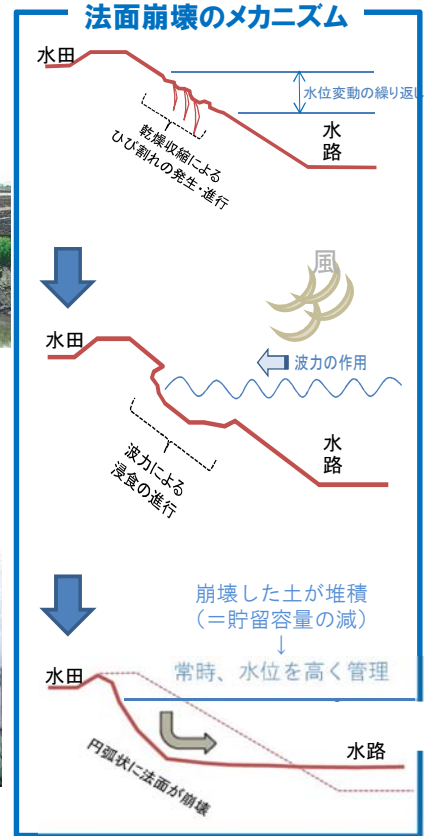
水位変動に耐えうる護岸整備により、クリークの機能回復を図り、営農等の安全性と周辺地域の安全安心な生活を確保



法面の浸食、崩落状況

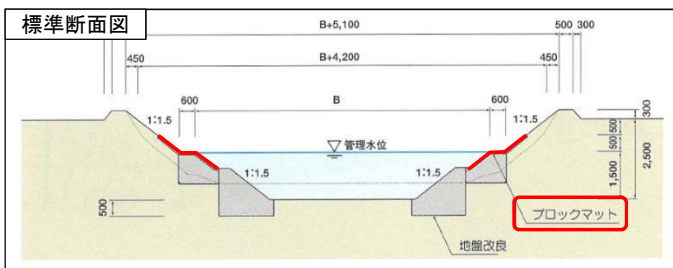


大雨時の湛水状況(H8)

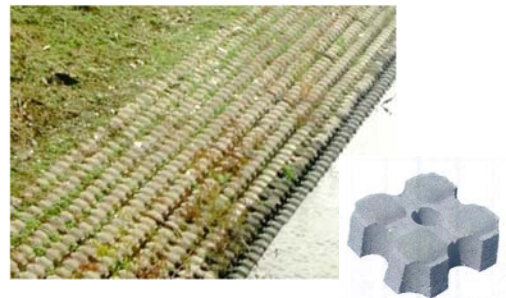


事業内容

水位変動に耐えうる護岸整備として、**ブロックマット工法**により実施。



(整備前)



(整備後)



整備状況①

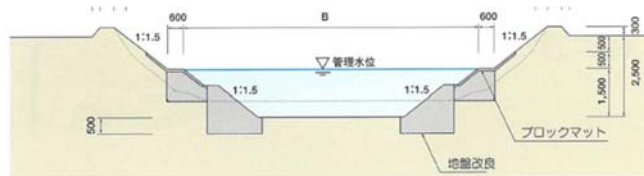
(着工前)



(地盤改良)



(掘削・整形)



(完成)



(ブロックマット敷設)



(土工完了)



整備状況②

○環境への配慮

整備した水路に捨石を設置し、水棲生物の生息環境を保護するなど生態系の保全を図った。事業完了後もフナ、コイ、ナマズ等の生息が確認されている。



捨石は兩岸50m間隔で設置しており、捨石の規模は概ね長さ3m、高さ2m、厚さ0.5mあり、一つの石は50kg内外程度のものを設置した。

事業効果

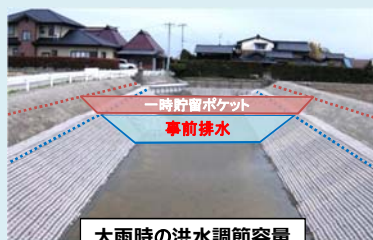


➤ 湛水被害の防止

護岸整備と浚渫により、クリークの機能回復が図られ、大雨時の湛水被害が減少した。

- ・排水が不良となっていたクリークの整備により、整備前に比べ**早急な排水が可能**となった。
- ・管理水位を下げる事が可能となり、**大雨時の一時貯留が可能**となった。
- ・大雨が予想される時には、**事前に排水することが可能**になった。

(法面崩壊の恐れから、これまでは水位を下げられなかった)



➤ 畑作物の生産拡大

湛水被害の軽減とともに、管理水位を引き下げることが可能となり、乾田化が図られたことから、麦、大豆、施設園芸(アスパラ)の安定生産が可能となり作付面積が増加した。



作物	事業実施前 (H12)【ha】	事業実施後 (H30)【ha】
麦	1,958	2,104
大豆	543	936
アスパラガス	13	16

県民の声

- ・クリークの法面が整備されたことにより、トラクターやコンバインなどの大型機械でも安心して作業ができるようになった。
- ・堆積した土砂で浅くなっていた水深が、昔のように深くなり、農業用水の不足を心配しなくて良くなった。
- ・法面が整備され、足場（ブロックマットの縁）ができたことで草刈りなどの維持管理がやりやすくなった。
- ・整備後これまでの間にのり面の崩壊や土砂の堆積はない。

○整備後の維持管理状況

本事業により整備された施設は川副町土地改良区及び農家により適切に維持管理されている。
 なお、多面的機能支払交付金を活用し、年2回地域住民と一緒にクリーク法面の草刈りや水草除去等を行っている。

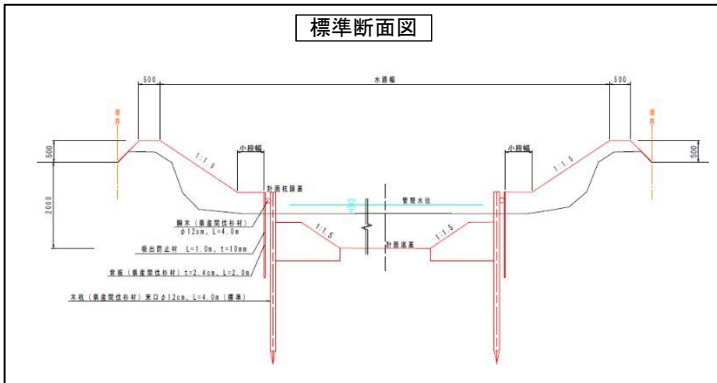
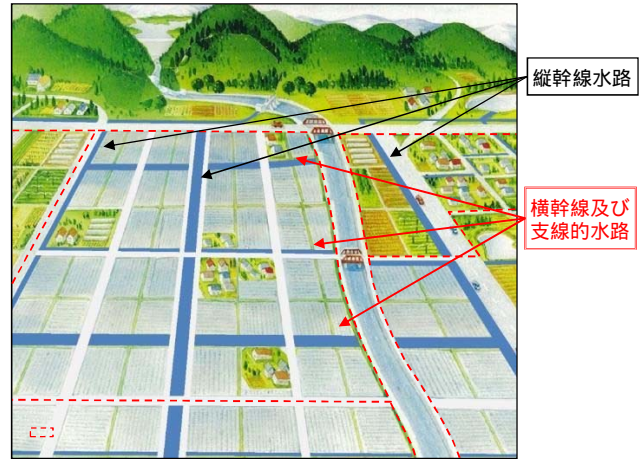


(参考)現在の県営クリーク防災機能保全対策事業の実施状況

現在、佐賀県においては、横幹線及び支線の水路の護岸整備を、木柵工により行っています。護岸に使用する木材は佐賀県産の間伐材を利用しています。

- ・実施地区：13地区
- ・受益面積：約14,880ha
- ・受益農家：約9,200戸
- ・関係市町：佐賀市、神埼市、小城市、上峰町、みやき町
- ・予定工期：平成24年度～平成35年度
- ・事業量：L=526km
- ・事業費：381億円

※縦幹線水路は、国営総合農地防災事業筑後川下流右岸地区(平成24年度～)により整備されています。



公共事業の効果等について

【事業名、地区名、事業概要】

事業名	: 地域自主戦略交付金事業
路線名	: 主要地方道 小城富士線
箇所名	: 小城市小城町畑田
事業の概要	
工期	: 平成 16 年度 ~ 平成 24 年度 (9 年間)
事業費	: 約 30 億円
事業内容	: 線形改良、自転車歩行者道整備、交差点改良 延長: $L = 1,700\text{m}$ 、幅員: $W = 6.0(18.0)\text{m}$

【公共事業の効果等】

線形改良及び交差点改良を行うことで、交通の円滑化を図ることができた。
自転車歩行者道の整備により、自転車・歩行者の安全性が向上した。
沿線地域においての新たな店舗の進出、住宅街の新設など、沿道の開発が行われ、地域の振興に貢献した。

【事業実施前の状況等】

本路線は、自動車交通量が多く、道路の線形が非常に悪いため、渋滞している。また、畑田交差点及び中町交差点に右折車線がなく、慢性的に渋滞していた。
また、沿道には学校や病院、スーパーなどの店舗が立ち並んでいるため、自転車歩行者交通も非常に多い。しかしながら現況は、歩道がなく、自転車・歩行者が危険な状況となっていた。

【事業実施後の状況や県民の声など】

整備後、線形が良くなったことと、畑田交差点及び中町交差点に右折車線が設けられ、右折車両による渋滞が解消されたことで、走行性が向上し、自動車交通の円滑化を図ることができた。また、自転車歩行者道を整備したことにより、自転車歩行者の安全性が向上し、事故件数が減少した。

さらに、新たな店舗の進出、住宅街の新設など、沿道の開発が行われ、地域の振興に貢献した。

県民の声として、

自転車での通学者もいる中、歩道が整備され、さらに自転車・歩行者がそれぞれ通行する範囲が分けられたことで、通学路の安全性が向上した。

沿線には病院があるが、道路が広くなったことで、救急車等の緊急車両も円滑に通行できるようになった。

との声があった。

【公共事業に係る効果等について】

地域自主戦略交付金事業

主要地方道 小城富士線

(道路課)

① 事業概要

- 事業名 : 地域自主戦略交付金事業
- 路線名 : 主要地方道 小城富士線
- 箇所名 : 小城市小城町畑田
- 事業の概要
 - 工期 : 平成16年度～平成24年度(9年間)
 - 事業費 : 約30億円
 - 事業内容 : 線形改良、自転車歩行者道整備、交差点改良
延長:L=1,700m、幅員:W=6.0(18.0)m

② 位置図



③ 背景と目的

背景

- ・自動車交通量が多く、道路の線形が非常に悪いため、渋滞している。
- ・畑田交差点及び中町交差点に右折車線がなく、交差点で特に渋滞している。
- ・沿道に学校や病院、スーパーなどの店舗が建ち並び、歩行者の交通も多い中、歩道がなく、自転車・歩行者が危険な状態となっていた。

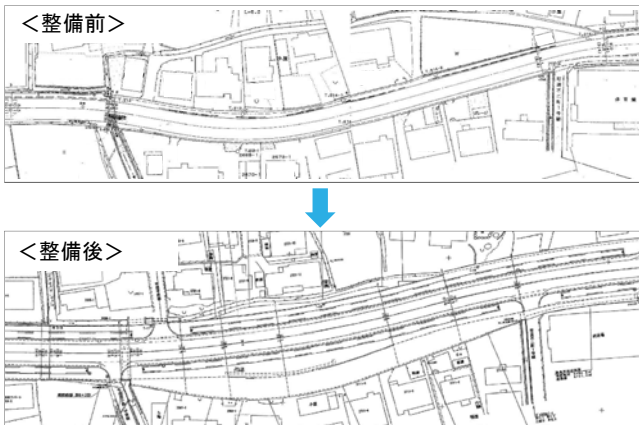
そのため

目的

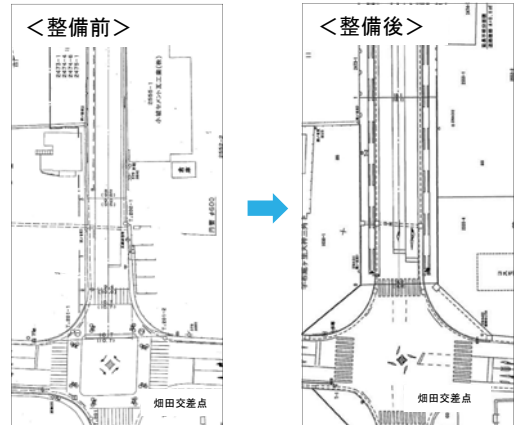
- ・線形改良及び交差点改良を行うことで、交通の円滑化を図る。
- ・自転車歩行者道を整備することで、自転車・歩行者の安全性向上を図る。

④ 事業内容

平面図(線形改良)

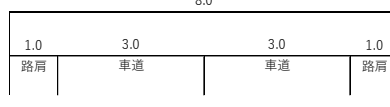


平面図(交差点改良)

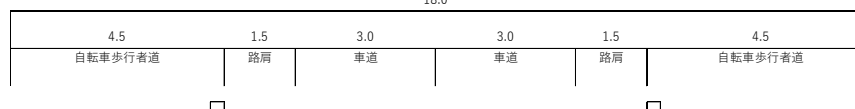


横断面

<整備前>



<整備後>



⑤ 整備前状況



⑥-1 事業効果

○整備前

畑田交差点



中町交差点



○整備後

畑田交差点



中町交差点



交差点に右折車線が整備されたことで、交差点での渋滞が緩和



交通の円滑化

⑥-2 事業効果

<整備前>

<整備後>



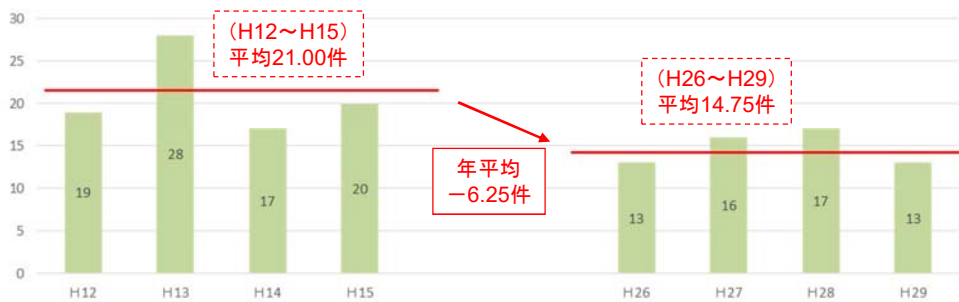
○歩道がなく、歩行者が危険な状態

自転車・歩行者の安全性が向上

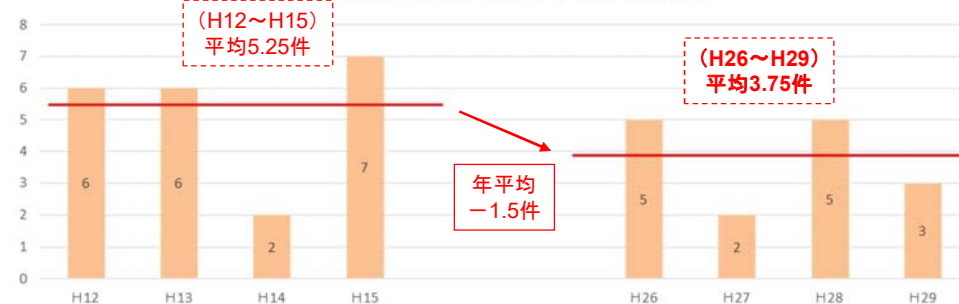
⑥-3 事業効果

事故件数(全体)

(件/年)



事故件数(うち歩行者・自転車関連)



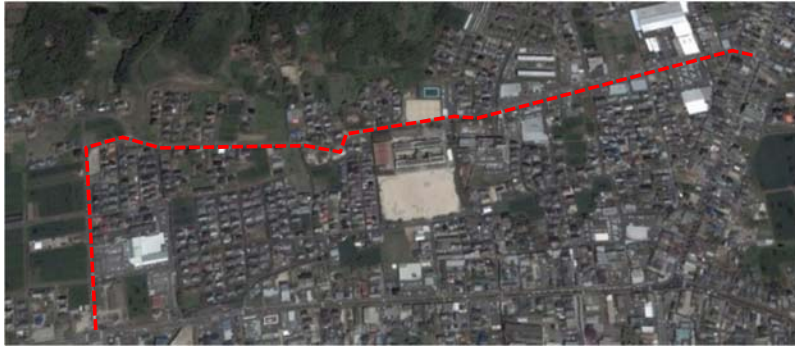
※イタルダ区間別データより

○事故件数及び歩行者・自転車関連の事故件数が約30%減少

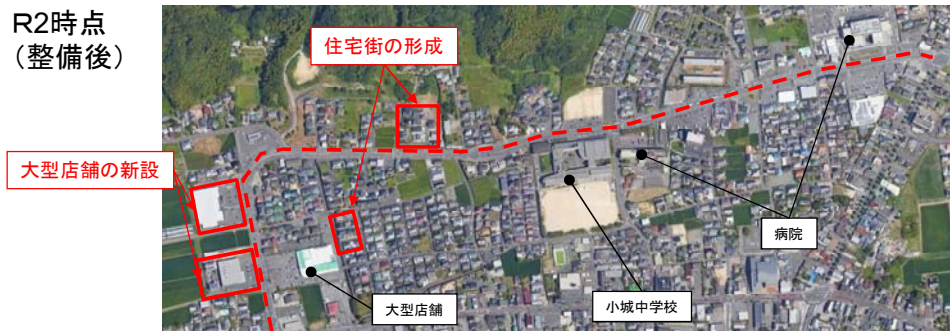
安全性の向上

⑥-4 事業効果

H15時点
(整備前)



R2時点
(整備後)



Googleより

- 沿道に新たに店舗が新設される
- 沿道に新たな住宅街ができる



地域の振興に貢献

⑦県民の声

○自転車での通学者もいる中で、歩道が整備され、さらに自転車・歩行者がそれぞれ通行する範囲が分けられたことで、通学路の安全性が向上した。

○沿線には病院があるが、道路が広くなったことで、救急車等の緊急車両も円滑に通行できるようになった。

公共事業の効果等について

【事業名、地区名、事業概要】

事業名：街路整備交付金事業

路線名：城内線（1工区）

箇所名：佐賀市本庄

事業の概要

工 期：平成16年度～平成24年度

事業費：約6.9億円

事業内容：自転車歩行者道整備、無電柱化

延長L = 91m、幅員W = 16.0m

【公共事業の効果等】

自転車歩行者道の整備及び無電柱化により事故件数が減少しており、歩行者、自転車利用者の安全性の向上が図られている。

接続する与賀町鹿子線と連続した無電柱化整備や、佐賀大学による大学構内の整備との連携により、良好な景観を有した市街地が形成された。

【事業実施前の状況等】

本路線は佐賀市中心市街地と佐賀市南西部を結ぶ幹線街路である。

本区間には佐賀大学の正門があること、近隣の本庄小学校等の通学路となっていることから、学生・児童が多く利用している。

しかし、歩道が未整備で道路幅員が狭小であり、通勤通学の時間帯は、佐賀市中心部へ通勤する自動車と学生・児童が輻輳し、大変危険な状況であった。

また、車道においては右折車線がなく慢性的な渋滞が生じていた。

【事業実施後の状況や県民の声など】

道路整備と大学構内の整備により、安全で快適な都市空間が形成された。

景観が良くなった。

歩行者・自転車が安全に通行できるようになった。

右折車線が設置され渋滞が緩和した。

道路側溝（排水）の整備により水はけがよくなった。

公共事業に係る効果等について

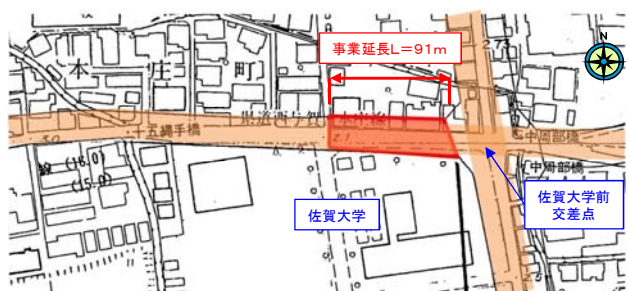
街路整備交付金事業事業 城内線(1工区)

(都市計画課)

1

事業概要

- 事業名 街路整備交付金事業
- 路線名 城内線(1工区)
- 事業箇所 佐賀市本庄町
- 工期 平成16年度～平成24年度
- 総事業費 約6.9億円
- 事業内容 自転車歩行者道整備
無電柱化
延長L=91m
幅員W=16.0m



2

背景と目的

【背景】

- ・歩道が未整備で道路幅員が狭小であり、自動車と学生・児童が輻輳し大変危険な状況であった。
- ・右折車線がなく慢性的に渋滞が生じていた。

そのため

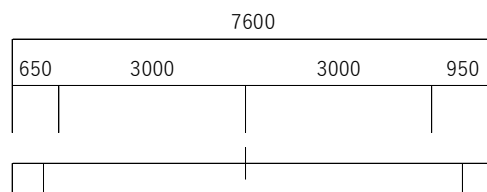
【目的】

- ・自転車歩行者道の整備及び無電柱化を行うことで、安全で快適な都市空間を形成する。
- ・右折車線を設置することにより、渋滞を緩和し市街地の交通の円滑化を図る。

3

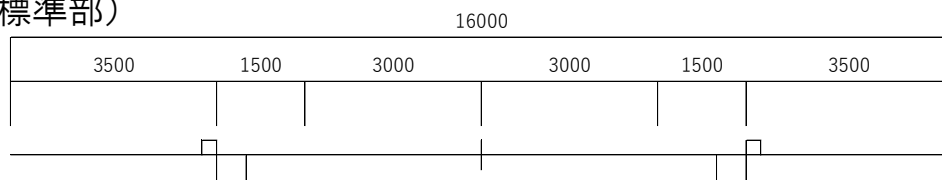
事業内容

整備前

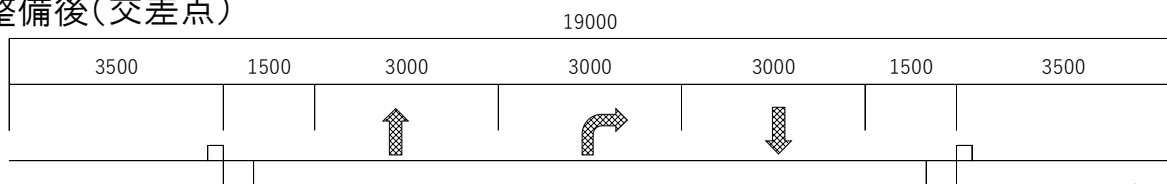


自転車歩行者道の整備 + 右折車線の設置 + 無電柱化

整備後(標準部)



整備後(交差点)



4

整備前状況

佐賀大学前交差点(西側を望む)



佐賀大学正門前(西側を望む)



路肩に自動車が駐車しており
歩行者の通行スペースがない

5

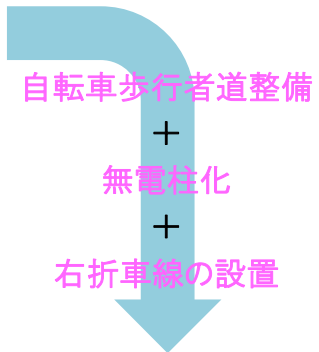
整備効果 1 (安全で快適な都市空間形成)



佐賀大学前交差点



佐賀大学正門前



道路整備と大学構内の整備の相乗効果
により安全で快適な都市空間が形成された



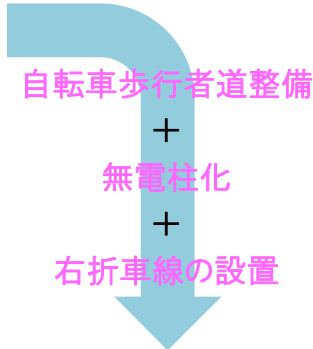
佐賀大学前交差点



佐賀大学前交差点

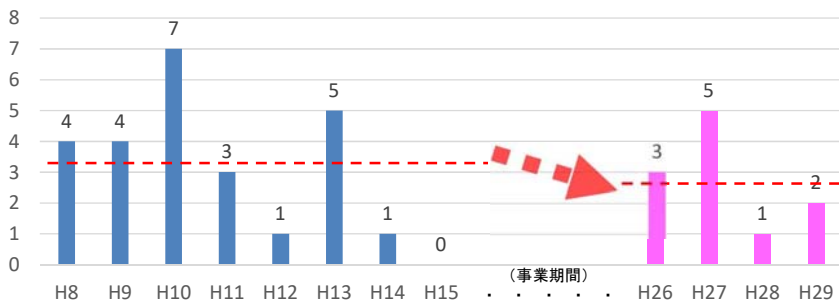
6

整備効果 2 (渋滞の緩和)



整備効果 3 (交通事故の減少)

全事故件数

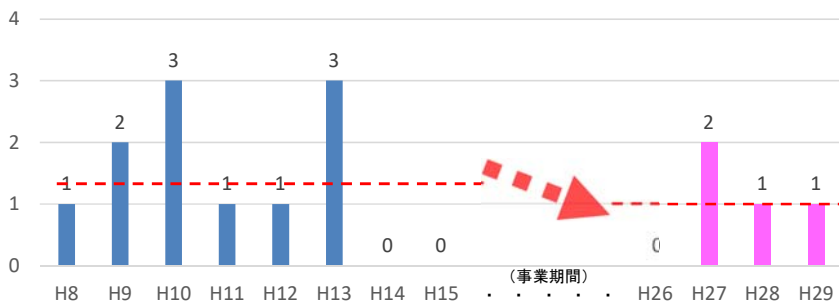


■ 事故件数が減少した。
(年平均事故件数の比較)

【全事故件数】

整備前(H8~H15) 3.13件/年
整備後(H26~H29) 2.75件/年
整備前と比較し約10%減少

歩行者・自転車関連の事故件数



【歩行者・自転車関連の事故件数】

整備前(H8~H15) 1.38件/年
整備後(H26~H29) 1.00件/年
整備前と比較し約30%減少

県民の意見

- 道路整備及び無電柱化、大学構内の整備により、安全で快適な都市空間が形成された。
- 景観が良くなった。
- 歩行者・自転車が安全に通行できるようになった。
- 右折車線が設置され渋滞が緩和した。
- 道路側溝(排水)の整備により水はけがよくなった。



9